

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		えんでこ2				公表日	令和8年3月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		活動内容に応じて空間を使い分け、過密にならないよう配慮しています。	利用人数が増えた場合でも落ち着いて過ごせるよう、柔軟な空間設定の検討が必要です。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		児童の特性や活動内容に応じて役割分担を行い、安全に支援できる体制を整えています。	急な欠員時でも支援の質が維持できるよう、応援体制の明確化が求められます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		視覚的に分かりやすい配置や動線づくりを行い、安心して行動できる環境を整えています。	成長や利用児童の変化に応じて、環境設定を定期的に見直す必要があります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日常的な清掃と整理整頓を徹底し、活動に合わせた空間づくりを行っています。	衛生面の維持に加え、より集中やリラクセスできる空間づくりの工夫が求められます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じてクールダウンできる場所を確保し、個々の状態に配慮しています。	利用が重なる場合の運用方法について、さらに整理していく必要があります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		日々の振り返りや会議を通して、支援の見直しを共有しています。	記録や検証をより仕組み化し、継続的改善を明確にしていける必要があります。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価結果を職員間で共有し、支援や運営の見直しに反映しています。	意見が少ない場合でも、ニーズをくみ取るための工夫が求められます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日常的に相談や意見交換ができる風通しのよい環境づくりを行っています。	意見をより具体的な改善につなげる仕組みづくりが必要です。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	現在、第三者による外部評価は実施しておりません。	必要に応じ実施を検討します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人内研修や外部研修への参加を促し、専門性向上を図っています。	学んだ内容を現場で共有・活用する仕組みの強化が求められます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援のねらいを明確にし、共通理解のもとで実施しています。	内容の更新や発信方法について、より分かりやすい工夫が必要です。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		児童・保護者の思いを丁寧に聞き取り、実態に即した計画作成を行っています。	成長や環境変化を踏まえた継続的な再評価をより意識する必要があります。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		ケース共有を行い、多職員の視点で支援内容を検討しています。	検討内容の記録化や役割整理を進め、より組織的な連携を深める必要があります。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		職員間で計画内容を確認し、共通理解のもとで支援を実施しています。	共有方法をさらに工夫し、新任職員にも分かりやすい体制づくりが必要です。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の観察を重視し、児童の変化を丁寧に把握しています。	記録の活用を進め、客観的な評価の積み重ねを強化する必要があります。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		本人支援・家族支援等の視点を意識し、必要な支援内容を整理しています。	地域連携や移行支援の視点をより具体化することが求められます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員間で意見を出し合いながら活動内容を検討しています。	役割分担を明確にし、計画的な立案体制を強化する必要があります。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事や児童の興味に応じた活動を取り入れています。	新しい視点を取り入れるための情報収集を継続する必要があります。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の状況に応じて活動形態を調整しています。	目的を明確にした活動設定をさらに意識する必要があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		事前に支援内容や役割を確認し、連携して支援しています。	短時間でも要点を整理した打合せ方法の工夫が必要です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		その日の気づきを共有し、次の支援につなげています。	記録として残り、継続的な改善に結び付ける必要があります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々の記録を通して支援の見直しを行っています。	記録の分析を行い、具体的な改善に反映する仕組みが必要です。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的に状況を確認し、必要に応じて計画を見直しています。	見直しの根拠を明確にし、より計画的に実施する必要があります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		複数の活動要素を取り入れ、バランスのよい支援を行っています。	活動の目的を整理し、支援効果をより明確にする必要があります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	1	選択場面を設け、児童が自分で決める経験を大切にしています。	すべての活動で選択機会を設けられるよう工夫が必要です。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	可能な限り児童の状況を理解した職員が参加するよう努めています。	参加体制の調整や情報共有の仕組みづくりが必要です。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	必要に応じて学校や関係機関と連絡を取り合っています。	連携を継続的な仕組みとして整理する必要があります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		送迎時や連絡を通して情報共有を行っています。	書面や記録による共有を強化する必要があります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		引継ぎ時に情報共有を行い、支援の継続性に配慮しています。	継続的な関係づくりを意識する必要があります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	必要に応じて支援内容の情報提供を行っています。	移行支援の流れを明確化する必要があります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	情報収集を行い、助言を得られる関係づくりを進めています。	研修や助言を受ける機会を計画的に設ける必要があります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		学校で他児と交流しているという現状を踏まえ、実施方法を再検討する必要があります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	管理者はコアメンバーとして参画し、職員は交流会などに必ず参加しています。	メンバー全員の積極的な参加が望まれます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日々の連絡や面談を通して状況を伝え合っています。	共有内容をより整理し、記録として残す工夫が必要です。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	相談対応や情報提供を通して家庭支援を行っています。	プログラムとして体系化することが課題です。
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2	3	契約時に必要事項を説明しています。	より分かりやすい説明資料の工夫が必要です。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		面談等で家族の意向を丁寧に確認しています。	確認内容を支援に反映する仕組みの整理が必要です。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		計画を提示しながら説明し、理解を得ています。	説明の質の均一化を図る必要があります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		随時相談に応じ、助言や支援を行っています。	相談内容の共有体制を強化する必要があります。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		NPO総会後など、必要に応じ交流の場を設けています。	ニーズを把握し、参加しやすい形の工夫が求められます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		対応手順を整え、迅速な対応に努めています。	周知方法の継続的な見直しが必要です。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		HP上のおたより等で活動の様子を伝えています。	発信方法の多様化を検討する必要があります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		管理方法を徹底し、慎重に取り扱っています。	継続的な職員周知が必要です。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		特性に応じた伝達方法を工夫しています。	支援方法の共有をさらに進める必要があります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	地域のスポーツ指導者を招くなどの取り組みを行いました。	地域ニーズを踏まえた無理のない形を模索する必要があります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルを整備し、訓練を実施しています。	内容の定期的見直しを継続します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		計画に基づき訓練を行っています。	実践的な訓練内容の充実が必要です。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		服薬や体調の確認を徹底しています。	情報更新の確実性を高める必要があります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者からの情報や医師の指示に基づき安全に対応しています。	緊急時対応の再確認を継続します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全管理を意識した支援を行っています。	研修内容の共有を強化します。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	必要事項を説明し理解を得ています。	周知方法をより分かりやすくする必要があります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事例を共有し再発防止を検討しています。	分析の深度を高める必要があります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修機会を確保し意識向上を図っています。	継続的な学びの機会を維持します。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		組織的判断のもと、事前説明と計画記載を徹底しています。	記録の確認体制を継続していきます。	